

回復期 病院紹介 No.66

社会医療法人 愛仁会
あまがさき
尼崎だいもつ病院 (兵庫県尼崎市)

リハビリテーション医療で地域のNo.1を目指す

緑豊かな公園に囲まれた駅前の好立地

愛仁会^{あいじん}尼崎^{あまがさき}だいもつ^{だいもつ}病院は、2016年に兵庫県尼崎市内の阪神電鉄大物駅前に開設された、まだ歴史の浅い病院です。2015年に旧兵庫県立尼崎病院が県立尼崎総合医療センターとして新設移転しており、当院はその跡地^{うぶこえ}で産声を上げました(写真1)。

尼崎総合医療センターとの連携を中心とした回復

写真1
尼崎だいもつ
病院外観



写真2
病院と併設施設
の全景。駅前の
好立地に加え、
緑豊かな公園に
囲まれている



病 院 の 概 要

2023年6月現在

病棟構成とベッド数:回復期リハビリテーション病棟
120床(60床×2病棟)、地域包括ケア病棟 50床
障がい者病棟 29床

回リハ病棟施設基準等:回復期リハビリテーション病棟
入院料1、心大血管疾患リハビリテーション料(I)、脳
血管疾患等リハビリテーション料(I)、運動器リハビリ
テーション料(I)、呼吸器リハビリテーション料(I)

診療科目:内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内
科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、整形外科リハ
ビリテーション科、産婦人科、小児科

回リハ病棟職員数:医師(全体)14名(うち専従医2名)
看護師45名、看護助手12名、理学療法士39名
作業療法士29名、言語聴覚士14名、社会福祉士
5名、薬剤師2名、管理栄養士2名、公認心理師1名、
歯科衛生士1名

併設施設:訪問看護ステーションだいもつ、ケアプラン
センターだいもつ、ヘルパーステーションだいもつ、通
所リハビリテーション、介護老人保健施設だいもつ(100
床)、サービス付き高齢者向け住宅レジリエンスだいも
つ(60戸)

主要なカンファレンスの種類と頻度:

- ・入院時合同評価(入院時)
- ・初期カンファレンス(入院時)
- ・定例カンファレンス(入院患者につき月1回)
- ・退院前訪問指導検討会(随時)等

期病院として活動を開始し、2017年には同敷地内
に介護老人保健施設とサービス付き高齢者向け住
宅を併設して地域の高齢患者さんに対する切れ目の
ない医療・介護サービスを提供してきました(写真2)。

設立時、病床数は149床でしたが増床を重ね現
在199床で運営。内訳は回復期リハビリテーション(以
下、回リハ)病棟120床、地域包括ケア病棟50床、
障がい者病棟29床です。回復期病院として重要な
リハビリテーション医療に特に力を入れており、リハビ
リテーション医療での地域No1を目指し、職員が院
内外で活発に活動しています(写真3・4・5・6・7・
8・9・10)。以下、概要を紹介します。

回リハ病棟・地ケア病棟・障がい者病棟

回リハ病棟では、近隣の急性期病院での治療後、
まだ身体的・心理的サポートが必要な患者さんを対
象に在宅復帰・社会復帰に向け専門性を活かした
多職種チームを編成し集中的なリハビリテーション医

回復期 病院紹介



写真4 (上) 回リハ病棟 3床室

写真3 (左) 回リハ病棟 個室
写真は11.77m²



写真5 5F・リハビリテーション室



写真6 3F・リハビリテーション室。約500m²



写真7 免荷歩行式トレッドミルでの歩行練習



写真8 専用の計測器を使った歩行評価

療を実施しています。2022年度の病床利用率は98%、個別リハビリテーション提供単位数は6.7単位/人・日、在宅復帰率は86%、疾患割合は脳血管6割、運動器4割でした。地域包括ケア(以下、地ケア)病棟は、同じく近隣で急性期治療終了後、もう少しの入院治療で社会復帰が見込まれる方、

在宅や施設療養中に状態悪化された方の受け入れを行っています。2022年度の病床利用率は93%、在宅復帰率は78%でした。障がい者病棟は、神経難病、重度の肢体不自由者、筋ジストロフィー患者、短期入院の方を受け入れています。昨年度の障害比率は84%、病床利用率99%、個別リハビリテーショ



写真9 デイルームで言語聴覚士と書字訓練

ン提供単位数は 4.1 単位 / 人・日でした。

当院リハビリテーション医療の特長

当院は、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折患者さんに加え、切断患者、パーキンソン病や ALS など神経難病の患者さんも積極的に受け入れています。地ケア病棟、障がい者病棟でも積極的にリハビリテーション医療を行い、退院後も通院リハビリテーション、併設老健施設、訪問看護ステーションと協力し地域医療・介護の一翼を担っています。入院患者さんには能力に応じ車いすや歩行器などの歩行補助具を福祉用具業者と連携し貸し出しています(写真 11)。患者さんには ADL の変化に応じて適切な歩行補助具を使っただけできるよう努めています。

院外業務では、入院時訪問や退院前訪問指導、外出練習などを積極的に実施しています。入院時訪問では、入院早期より発症(発病)前の生活環境、生活状況を確認。それらの個別・具体的な情報を



写真 10 屋外に出て気持ちをリフレッシュ。敷地内は緑が多く中庭もある



写真 11
貸出用の車いす



写真 12
自宅浴室を再現する
シミュレーター

早期から活用して、リハビリテーション室や病棟での具体的場面を想定したより実践的なリハビリテーション医療に役立てています。随時、シミュレーター等(写真 12)で自宅トイレや浴室の使用に必要な能力、車いす導入の是非を検討して早期からの各種サービス調整、家族の受け入れ体制準備につなげています。

1. 心臓リハビリテーション、退院後は外来でも

近隣急性期病院等で加療後すぐ自宅に帰れない患者さんを転院で受け入れ、ADL 評価や心臓リハビリテーションを積極的に行っており、退院後も通院可能な方には外来心臓リハビリテーションを継続しています(写真 13)。心臓リハビリテーションチームは

回復期 病院紹介



写真 13 (上) エルゴメーターによる有酸素運動

写真 14 (右) 心肺運動負荷試験 (CPX) による機能測定



写真 15 (上・左)、写真 16 (上・右) 患者宅での訪問リハビリテーション (理学療法、言語聴覚療法)



循環器内科医、看護師、理学療法士、管理栄養士、公認心理師など多職種で構成され、毎週カンファレンスで情報、方針を共有しています。CPX (心肺運動負荷試験) を実施、運動耐容能評価や運動強度の設定、患者指導に役立っています (写真 14)。

2. 通院・訪問リハビリテーションで退院後フォロー

回り病棟から自宅退院後、生活を再開した患者さんの中には、不安や恐怖心から活動性が低下する場合があります。そこで、当院退院患者さんを対象に、通院リハビリテーションと訪問リハビリテーションを通じたフォローアップを実施しています (写真 15、16)。通院リハビリテーションは対象者が幅広く、装具や義足等作成後の経過観察・指導とメンテナンス、高次脳機能障がい有する患者さんの生活再建支援等、多岐にわたり対応しています。

訪問リハビリテーションでは、リハビリテーション科



写真 17 (上・左) 愛仁会グループ教育ガイドライン (上・右) 2021年4月改訂第3版

専門医の主導のもと、院内多職種・地域連携関連機関と協力を図り、患者・利用者さんと共に明確な生活目標を定めながら期間を限定した介入を行い、安心して在宅生活に移行できるよう支援しています。

3. 療法士教育：法人グループ共通 GL を導入

当院を含む愛仁会グループでは全体の療法士を対象に、能力開発を目的とした「教育ガイドライン」を2013年度から導入しています (写真 17)。同ガイドラインは各療法士が免許取得後の自己実現をサ



写真 18 回診前のカンファレンス



写真 19 通所リハビリテーションのレクリエーション

ポートするもので、「Professionalとして Generalist から Specialistへ」という目標を掲げ、「報酬に対する価値ある専門職であること。Generalistとして幅広く経験し、Specialistとして自分の得意分野を磨いていく」というキャリア形成の方向性を示しています。卒後1年目からスタートする個々のキャリア形成と、医療人としての成長を組織立って支援しています。生涯学習をしていかなければならない療法士にとって、望ましいビジョン・方向性を明示した教育ガイドラインの導入は、専門職として自身の働き方を見つめ直す際の一手段として有効だと考えています。

人的資源の活用

1. 各種チーム回診

当院には、NST回診(栄養サポートチーム)、経鼻ラウンド、褥瘡回診、DST回診(認知症・せん妄対策)、糖尿病回診など、多職種から構成されるチーム回診があります。経鼻ラウンドでは、入院時に経鼻胃管が留置されている患者さん全員を対象に行っています。



写真 20 エントランスホールに開設したふれあい広場「ほんまる」の図書スペース

経鼻胃管を早期に抜去し、安全に経口摂取を進めるよう多職種で取り組んでいます。DST回診では、認知症専門医を中心とした多職種介入で入院中の認知症やせん妄の患者さんに治療を提案しています。認知症外来も実施しており退院後のフォローアップにも力を入れています(写真18)。

2. 在宅部門、退院調整部門の取組み

尼崎だいもつ病院の開設と同時に、同施設内に地域包括ケア推進センターとしてケアプランセンター、訪問看護ステーション、訪問介護、通所リハビリテーションの各事業を展開しています(写真19)。当院入院患者さんの退院後の生活調整、在宅での医療的ケア、生活援助が必要な方への看護師・介護職員の訪問など、患者・利用者さんが安心して退院後の生活を送れるよう各事業所と連携しています。

3. 患者向け活動への取組み

当院では、1階エントランスにふれあい広場「ほんまる」を開設。地域の皆さまに手作りいただいた本棚での「図書コーナー」があり、入院中の患者さんはもちろん、ご家族や地域の皆さまにも自由にご利用いただいています(写真20)。

また、エントランスの広いスペースを有効活用し、地域住民向けの市民講座(写真21)、療法士による体操教室、看護の日イベント(写真22)、コンサート(写真23)など、年間を通じてさまざまなイベント



写真 21 市民公開講座



写真 22 看護の日のイベントにお越しいただいた近隣住民へハンドマッサージ



写真 23 職員によるフラダンスのイベントを開催

を開催しています。

そのほかにも、認知症に関するさまざまな悩みや不安を当院職員（医師、看護師）にご相談いただく機会である「すみれの会」の定期開催、職員の手によるホスピタルアートの展示（写真 24）など、地域の方々が気軽に立ち寄って利用いただける病院を目指しています（写真 25）。



写真 24 職員の手によるホスピタルアートを展示

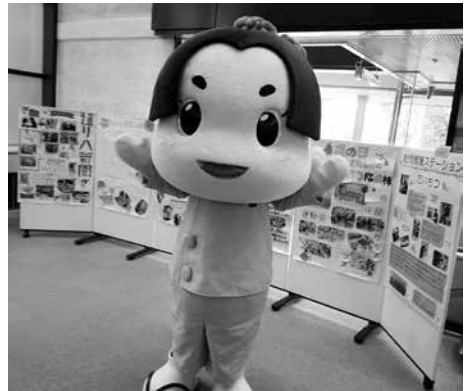


写真 25 職員が作成した病院公式マスコットキャラクター「だいもつくん」（写真 23 にも）

冒頭述べたように、当院は設立 7 年目のまだまだ若い病院です。設立以来試行錯誤を重ねながら、病院の理念である「住み慣れた地で、いつまでも自分らしく生き活きと」（患者さんが過ごせること）に貢献できるよう、職員一丸となって努めています。

当院のある尼崎市も少子高齢化の進行は著しく、入院外来を問わず、リハビリテーション医療ニーズと重要性が増していくことは自明です。リハビリテーション医療の外来・地域展開、新たなエビデンス構築など、コロナ禍の影響で手薄になっていた取り組みにも改めて着手していきます。われわれのような中小病院も今後は一層激しい競争環境に置かれます。短いながらこれまで培ってきたリハビリテーション医療のノウハウとわれわれの若さを武器に、この地域に貢献できる病院づくりを目指していきたいと考えています。